

春分儀式

I :: O :: S :: 儀式魔術文書 VE98A

第 1 章	解 説
1	司官の配置
2	アストラル神殿の構造
3	身辺の準備
第 2 章	儀 式
	神殿への入場
	ウシャブティ
	マルクト神殿
	イエソド神殿
	ティファレト神殿
	マラキムの召喚
	四玉座の固定
	這い回る術式
	PWの交換
	宇宙の主への賛歌
	竜の逆周行
	玉座の解放
	マラキムの帰還
	イエソド神殿
	マルクト神殿
	地上への帰還

THE OFFICIAL ORGAN
OF
I :: O :: S ::

PUBLICATION IN CLASS D
IMPRIMATUR : M FRATER I :: O :: S ::

THE VERNAL EQUINOX CEREMONY FOR ASTRAL WORKING
I :: O :: S :: ASTRAL TEMPLE WORKING

第1章 解 説

本儀式は、小規模な団内グループ(ロッジ単位程度)が、簡易な準備で行える霊的集合儀式(Astral Temple Working)として作成した。従って、実行儀式よりも簡略化した部分がある。《春秋分点》は、「均衡と調和」を表象する宇宙的な時刻である。年に2回の分点において、太陽の運行または振動と地上の四大元素が融合する。本儀式は、原則的に春分点の前後48時間以内に実施すること。本儀式では、ティファレト神殿を核として実践する。

儀式内容は、《黄金の夜明け団》の「竜の天球」と結びついている。本儀式においては「這い回る術式」が用いられており、ティファレト神殿のなかにイエツィラーのマルクトの地を投影する。儀式に関連する魔術理論については、『黄金の夜明け魔術全書』下巻「北極周辺の4エースに象徴される諸力の渦巻き周天の法則」を参照すること。

1 司官の配置

a 司官の指定

本儀式に必要な司官の人数は、次の4人である。

それぞれの太守(ドミヌス)は男性形の天使を、貴婦人(ドミナ)は女性形の天使を神の姿形として纏う。それぞれの天使はMLKIM天使団に属し、神名IHVHの各1文字を体現する《聖名を冠するメレク》である。

DOMINUS VASTITAS (DV) 砂漠の太守 = I = I V K A L (ヨカエル)

DOMINA PONTUS (DP) 深淵の貴婦人 = H = H Q L A L (ヘクラエル)

DOMINUS AURORA (DA) 夜明けの太守 = V = V I N A L (ヴァナエル)

DOMINA BOREALIS (DB) 極北の貴婦人 = H = H I N A L (ヒナエル)

b マラキムの召喚

四人の司官は、ティファレト神殿のなかでマラキムを召喚し、ヨカエルの呼びかけで「肉の衣を去る」までは、実効上の天使として活動する。ちなみに天使の言う「肉」とは、魔術師の「光体」のことである。

「ヨカエルのテレズマ的イメージ」

全体的にオリエント風の印象的な男性形の天使。光翼はほぼ開ききった形で、強い輝きを周囲に放射している。ルビーの額飾りを繋ぐ紐が緑色の光沢をもつ剛い黒髪を束ねており、それとは対照的にアルビノのように色素の抜けたアラバスターの肌に深紅の瞳が額飾りの宝石の輝きを写したように強烈な光を放っている。唇の紅さと濃い髭が印象的だ。スミレ色の胴着は一枚の厚地の布で出来ており、剥き出しの両腕は、生命力が血肉となったように筋肉質の張りのある肌が露呈しており、上腕部には赤と黄の三角形を組み合わせた模様のパンドを、手首には磨いた銅のリングをはめている。赤い分厚い革の剣帯から2本の支え紐が伸び腰の後ろで吊した途方もない幅広の大剣を留めている。黄色いキルトのような腰布の下には薄い黄色のタイツに包まれた逞しい脚が伸びている。足は革サンダルに包まれている。

「ヘクラエルのテレズマ的イメージ」

豊かな感情の広がりを感じさせる女性形の天使。光翼は、この天使の全身を左右から包み込むように展開され、同時に世界をも包み込んでいよう。サファイヤのティアラの下に、ヴェネチア金髪めいた柔らかな金色のくすみをもつ赤毛がひろがり、面長の顔を包み込んでいる。銀白色の糸で織られた布地が喉元から手首までを覆っているが、それを包み込むように、細身の身体の線を浮き上がらせな青いマントが、緩やかな曲線を描いてうねっている。均整の取れた脚は同じく黄色の布で織られたスカートに包まれている。足は裾に隠れて見えない。天使はエジプト風の羽毛の杖を両手に提げている。

「ヴァナエルのテレズマ的イメージ」

全体的に頑丈で、しかし軽快な印象を与える少年の風貌を残す男性形の天使。光翼は、凝集したオーラの波となって半ば開いた山形の光の渦背後から放射している。オパール額飾りを繋ぐ紐が軽く乱れたオリブ色の短い髪を束ね、永久の宇宙を見通す英知を宿した目が、鋭角的だが顎の強く張った顔に光を与えている。緑灰色のシャツの深い襟首が、渋みのある茶色の革の袖無しジャケットから突き出ている。ジャケットの全面には羽を象った模様が縫い取ってある。中世的な赤革の半ズボンからは、右脚が太陽の黄金色、左脚が空の青色のタイツが突き出ており、緑の鋭角的なつま先をもつ革靴が、脚の下半分を覆っている。ヴァナエルは後ろ手にカドケウスに似た翼のある蛇の杖をもつ。

「ヒナエルのテレズマ的イメージ」

秘められた激情を予感させる緊迫した雰囲気漂わせる女性形の天使。この天使は全開の光翼を襲いかかる驚のように広がっているが、同時にその奔流のようなオーラの流れは、落下する星々の世界を支えているようでもある。エメラルドのティアラの下に、挑発的な鮮明な赤毛の髪がひろがり、やや険しい表情のなかに切れ長の目、肉感的な唇が東洋風的美貌を形成している。細い繊細な胴体は、豊かな乳房を露わにしたうすぎぬで覆われ、安定した腰からすらりとした伸びた脚は、クレタ風の黄土色のスカートに覆われている。素足の指には、エメラルド色のペデキュアが施されている。天使は歪曲した刃をもつ鎌を手に行っている。

天使ヨカエル（ヨド：天上の「火」）

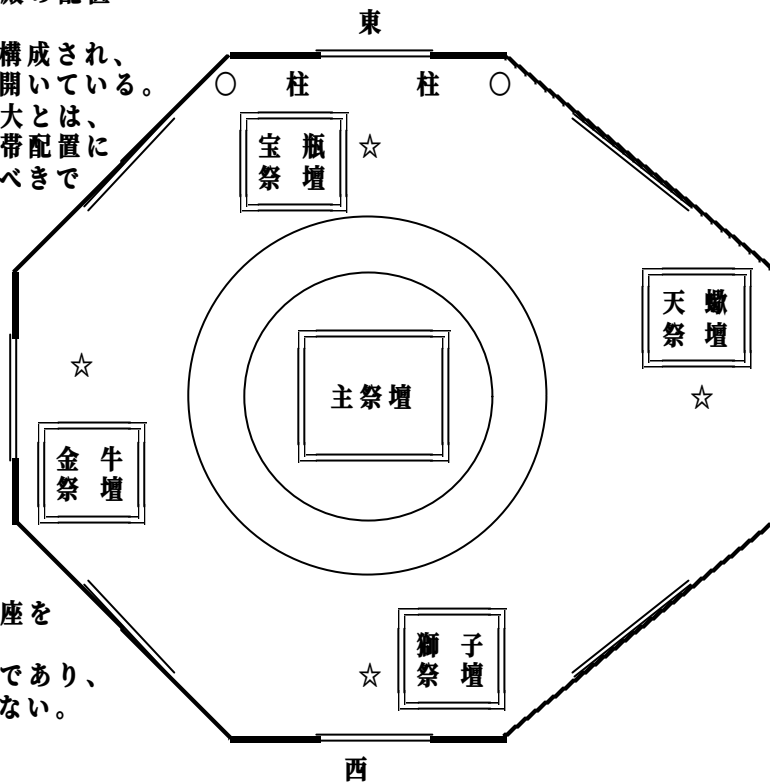
天使ヘクラエル（ヘー：天上の「水」）

天使ヴァナエル（ヴァウ：天上の「風」） 天使ヒナエル（ヘー：天上の「地」）

2 アストラル神殿の構造

a ティファレト神殿の配置

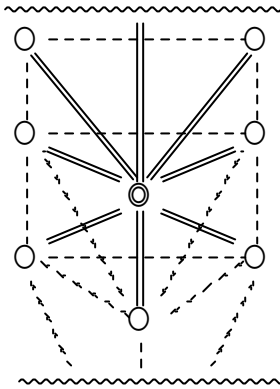
神殿は正八角形で構成され、各壁には小径の扉が開いている。方位は、地上の四大とは、対応していない。獣帯配置に関連するので注意すべきである。



☆は、四方位の玉座を示す。
なお、図は概念図であり、縮尺なども均等ではない。

- 2本の柱：神殿の東正面の左右に、白く輝く大理石の柱が床から天井までそびえている。
- 四つの玉座：四方位の壁の中央に巨大な玉座があり、司官の座となる。
- 宝瓶祭壇：通常の祭壇に、薔薇色の絹布が正方形に折り畳まれている。
小さな香炉（フランクインセンス）、薔薇色の蠟燭（片手持ちの蠟燭立）、ピンクの花びらを入れた小さなボウル
- 天蠟祭壇：祭壇に、青の絹布が正方形に折り畳まれている。
小さな香炉（パイ）、青の蠟燭（片手持ちの蠟燭立）、ワインと水を入れた杯
- 獅子祭壇：祭壇に、深紅色の絹布が正方形に折り畳まれている。
小さな香炉（シナモン）、赤の蠟燭（片手持ちの蠟燭立）、綺麗な砂を入れた小さなボウル
- 金牛祭壇：祭壇に、金色の絹布が正方形に折り畳まれている。
小さな香炉（ハッカ）、薔薇色の蠟燭（片手持ちの蠟燭立）、胡麻の種を入れた小さなボウル
- 主祭壇：黒の大型二重立法祭壇。儀式的開始時には何も置かれていない。
儀式終了時の供物の配置は、下図のとおり。

b ティファレト神殿における方位



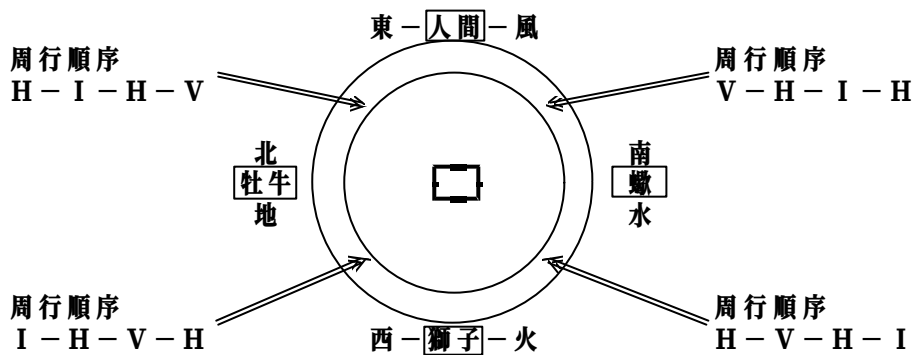
便宜上、ティファレトから見て左図の上方を東、右方を南、左方を北、下方を西と呼んでいる。神殿の八方位の壁は、正八角形に再配置されたティファレトから伸びる小径に対応している。ただし、四つの玉座は遊動する。それを固定したのは四つのケルブであり、神殿の床に投影された宮、より正確に言えば、北極点を囲む四つのエースに対応する不動宮（獅子、天蠟、宝瓶、金牛）に重りを下ろしている。この位置が、這い回る竜が「とぐろ」を巻く場である。

儀式では、四司官が竜を模して動くとき、順序の入れ替わるポイントでもあった。

すぐに気づくだろうが、この玉座の方位象徴は、小径とは一致しない。しかし、無関係でもない。

c 這い回る術式

本来は、I-H-V-H (DV-DP-DA-DB) となる周行順序だが、獣帯のエースの場による引力と竜自体の結合力の組み合わせで、四つの渦、つまり、「とぐろ」を巻く。その渦を通過する度に先頭が後尾に入れ替わる運動を行い1巡すると元に戻る。



3 身辺の準備

a 部屋の準備

部屋を暖かくし、プライバシーを保護できるような態勢づくりをする。（家族に部屋に入らないように断ってからドアの鍵を閉める等）、携帯電話、アラームの類はあらかじめ切っておく。部屋の中央に椅子か、ソファを置き、その他の不要なものを片づける。

b シナリオ

シナリオ文書を一部、手軽に確認できる場所に置く。シナリオの流れを暗記できなかったら、自分以外のパートの台詞とト書をテープに吹き込んでおく。

c 直前の手順

開始する前に手を洗い（儀式的沐浴）、法衣（または身体を締め付けない服装）に着替え、LBRPを行って椅子に座り、中央の柱の行法で活性化する。

第2章 儀式

参加者は、座ったまま目を閉じ、自分のアストラル的姿形を形成する。前方に光体を形成する。自らが輝く光の法衣を纏う様子を強く視覚化する。

光の法衣の着用が終了したら、沈黙し儀式の背後にある意味を黙想しつつ待つ。

DA、DV、DP、DBの順番で神殿に入る。

順番が来たら、自分の光体の身体を立ち上がらせ、肉体を脱ぎ捨てたまま、前に進み光のトンネルを通過して、アストラル神殿の外庭に着地し、扉の前に立つ。マルクト神殿のヤキンとボアズの柱を通過し、青銅の扉に面すると、扉の表面に刻まれたIOSの三文字が内側から光を発し、扉は音もなく両側に開く。

神殿の内陣広間に通じる廊室において、入場の順番に司官たちが並ぶ。

先頭に立ち、集まって参加者を振り返るDAが静かに命じる。「ウシャプティを纏うべし。」DAは、率先して「小神像（ウシャプティ）」を纏う。

すなわち頭頂の光球から光を拡散し、やわらかな膜のような形に引き延ばして、喉の光球に結びつけ、さらに胸と背を通して、胴の光球を振動させ、腰を振動させ、最後は足下の光球を振動させ、全身をひとつの巨大な光の膜で包み込んでしまう。その無定型のオーラの卵を好みの神、天使、神話的形態に変化させる。この場合は、司官は顔のないアケファロスの姿形をまとう。参加者は、文字通りエジプト神話の代理神像である直立した人間の姿をもつ霊的姿形を纏う。

DAが、マルクト神殿の市松模様の床に最初の一步を踏み入れる。

東に立ち、呼吸と中央の柱で魔法鏡を活性化し、神殿の境界までオーラを拡張し、神殿を黄金の光で満たす。これらが完全に成し遂げられたら、神殿の東の壁を背にして、西を向き合図の鈴を鳴らす。

DAの霊的な鈴の合図で、DVを先頭に廊室から入場を開始する。

最初にDVが入室して、北、東を通過して、南の壁に行く。DVは内側を向いて、玉座の前に立つ。続いてDPが入室して、右回りに一周し、西壁に立つ。司官としては最後にDBが入室し、1周と4分の1周、北の壁に立つ。他の参加者は、DBの後を追ひ、女性はそのまゝ北の壁に、男性はDBが止まったあとさらに半周して南の壁に並ぶ。

DAは、内側を向いたまま次の言葉を宣言する。

DA：「ヘカス ヘカス エステ ベペロイ I ∴ O ∴ S ∴ ———— ロッジの兄弟姉妹たちよ。
上位の神殿へ続く小径を辿らん。」

DAは東の中央の扉に向かい《ヴェールを開く》合図を行う。その後、手にした有翼の蛇の杖で、その上に月の召喚のユニカーサル・ヘキサグラムを描く。

正面の扉が活性化され、開け放った扉の奥に銀白色の霧が立ちこめた小径が見える。DAは、率先して小径に入り、先ほどと同じく、DA（風）—DV（火）—DP（水）—DB（地）の象徴順序で、小径を越える。

イエソドの神殿に入る。DAは、円形の神殿の西から入り、月の泉盤を跨ぐ真珠母色のアーチを越えて、ゆっくりと正面奥の扉に辿り着く。次に入場したDVは、西から右へ回り込み南を通過して、真っ先に東の正面に辿り着く。DPは、DVのあとから入場し、反対に左に折れて、北を経由してDVの後ろに並ぶ。DAがDPの後ろにつく。最後に入場したDBが、橋を越えて、列の最後尾につく。

DVは、剣を上げ、太陽の召喚のユニカーサル・ヘキサグラムを描く。扉が活性化され、開く。DV（火）—DP（水）—DA（風）—DB（地）の順序で、太陽神殿につながる霧の小径を越える。

一同は太陽神殿に到着した。マルクト神殿とは逆に反太陽廻りの周行を行いながら、司官が配置につく。先頭のDVは、入場した扉の前の玉座の位置で止まる。DP、DA、DBはその前を通過して右に折れて、左回りの周行コースに乗る。DPは、南の玉座の前で止まる。DA、DBがその前を通過する。DAは東の玉座の前で止まり、最後にDBが北の玉座の前で止まる。各司官は、右手を各方位の小祭壇に置き、天上の獣帯のなかのタローのエースに接地させる。各司官は、祭壇の方を向いて、今一度アケファロスの神の姿形を玉座に相応しい巨大な姿に拡大していく。

全員が自分の位置についたとき、東からDAが発言する。

DA：「宇宙の深奥より、太陽のなかの太陽が、最初の光を発する。

虹の最上点から、大いなる風が汝を呼ぶ。

イヨオオオ・・・・カアアア・・・・エル。

立ちて、この聖なる場を祝福されたい。
汝が御手をあげ、われらに祝福を下されたい。」
西の玉座の前にいるDVは背後の地平線から覆い被さるように出現する巨大な天使像をウシ
ャブティの上に纏う。アケファロスの顔のないオーラに、天使ヨカエルのテレズマ的姿形が融
合し、再形成されてDVの霊的外形が急激に変化する。DVが答える。
DV：「われは、メレク・ヨカエル。聖なるヨドを冠する天使なり。
天上の火の運び手にして、竜の第1のとぐろを支えたり。」

北からDBが発言する。
DB：「深き大地の穴より、白雪に覆われた高山の頂きより、
極北の星の凍てついた光のもと、大いなる大地が汝を呼ぶ。
ヘエイイ・・・・クラアア・・・・エル。
立ちて、この聖なる場を祝福されたい。
汝が御手をあげ、われらに祝福を下されたい。」
南の玉座の前にいるDPは背後の地平線から覆い被さるように出現する巨大な天使像をウシ
ャブティの上に纏う。アケファロスの顔のないオーラに、天使ヘクラエルのテレズマ的姿形が
融合し、再形成されてDPの霊的外形が急激に変化する。DPが答える。
DP：「われは、メレク・ヘクラエル。聖なるヘーを頂く天使なり。
蒼穹の水の運び手にして、竜の第2のとぐろを支えたり。」

西からDVが発言する。
DV：「砂漠の灼けた砂を乾いた風が撫でる。
沸きたつ火山の内奥より、大いなる炎が汝を呼ぶ。
ヴァアア・・・・ナアアア・・・・エル。
立ちて、この聖なる場を祝福されたい。
汝が御手をあげ、われらに祝福を下されたい。」
東の玉座の前にいるDAは背後の地平線から覆い被さるように出現する巨大な天使像をウシ
ャブティの上に纏う。アケファロスの顔のないオーラに、天使ヴァナエルのテレズマ的姿形が
融合し、再形成されてDAの霊的外形が急激に変化する。DAが答える。
DA：「われは、メレク・ヴァナエル。聖なるヴァウを擁する天使なり。
大いなる風の運び手にして、竜の第3のとぐろを支えたり。」

南からDPが発言する。
DP：「忘れられた島の浜辺より大いなる船出のときは来た。
ざわめく大海より、蒼穹の水が汝を呼ぶ。
ヒイイ・・・・ナアアア・・・・エル。
立ちて、この聖なる場を祝福されたい。
汝が御手をあげ、われらに祝福を下されたい。」
北の玉座の前にいるDBは背後の地平線から覆い被さるように出現する巨大な天使像をウシ
ャブティの上に纏う。アケファロスの顔のないオーラに、天使ヒナエルのテレズマ的姿形が融
合し、再形成されてDBの霊的外形が急激に変化する。DBが答える。
DB：「われは、メレク・ヒナエル。聖なるヘーを抱く天使なり。
無窮の大地の運び手にして、竜の第4のとぐろを支えたり。」

東からDAが発言する。
DA：「ティファレトの天使マラキムよ。
四方位に守護聖獣たるケルビムを召喚し、玉座を固定せよ。」

DVは、反転して玉座を通し、西方を向く。剣で等腕十字架とそれに外接する円を描く。
DV：「わが冠する聖なる火花により、われ汝を召喚す、翼ある獅子よ。
神聖なる火の守護獣よ、この儀式を西の玉座より守りたまえ。」
DVは、内側を向く。
DPは、反転して玉座を通し、南方を向く。羽毛の杖で等腕十字架とそれに外接する円を描
く。
DP：「わが心臓に燃える聖なる火花により、われ汝を召喚す、鷲よ。
神聖なる水の守護獣よ、この儀式を南の玉座より守りたまえ。」
DPは、内側を向く。
DAは、反転して玉座を通し、東方を向く。杖で等腕十字架とそれに外接する円を描く。
DA：「わが背骨に渦巻く聖なる火花により、われ汝を召喚す、翼ある人よ。
神聖なる風の守護獣よ、この儀式を東の玉座より守りたまえ。」

DA は、内側を向く。
DB は、反転して玉座を通し、西方を向く。鎌で等腕十字架とそれに外接する円を描く。
DB：「わが抱く聖なる火花により、われ汝を召喚す、翼ある牡牛よ。
神聖なる地の守護獣よ、この儀式を北の玉座より守りたまえ。」
DB は、内側を向く。
DA が、宣言する。
DA：「聖なる祭壇に敬意を捧げん。ヨカエルよ、古式に則り汝の供物を奉じたまえ。」
DV が、獅子祭壇の赤絹の布をもち、中央の主祭壇に進み出、祭壇に北から南へかける。
DV：「われは初めの供物を光の源たる祭壇に捧げん。
翼あるカデシュよ、わが冠の放つ分光として、供物を受けられよ。」
DV は、引き続き、獅子祭壇から香炉をもち、布の上に置く。
DV：「われは次なる供物を、初めの供物に重ね捧げん。
DV は、蠟燭を選び置く。
DV：「われは第三の供物を並べ捧げん。」
DV は、ボウルを選び言う。
DV：「われは最後の供物を並べ捧げん。」

DB：「ヘクラエルよ、古式に則り汝の供物を奉じたまえ。」
DP が、天蠟祭壇の青絹の布をもち、中央の主祭壇に進み出、祭壇に西から東へかける。
DP：「われは初めの供物を図られざる祭壇に捧げん。
翼あるカデシュよ、わが心臓の生命の反映として、供物を受けられよ。」
DP は、引き続き、天蠟祭壇から香炉をもち、布の上に置く。
DP：「われは次なる供物を、初めの供物に重ね捧げん。
DP は、蠟燭を選び置く。
DP「われは第三の供物を並べ捧げん。」
DP、杯を選び言う。
DP：「われは最後の供物を並べ捧げん。」

DV：「ヴァナエルよ、古式に則り汝の供物を奉じたまえ。」
DA が、宝瓶祭壇の黄絹の布をもち、中央の主祭壇に進み出、祭壇に南から北へかける。
DA：「われは初めの供物を不変の祭壇に捧げん。
翼あるカデシュよ、わが声の響きを宿せし、供物を受けられよ。」
DA は、引き続き、宝瓶祭壇から香炉をもち、布の上に置く。
DA：「われは次なる供物を、初めの供物に重ね捧げん。
DA は、蠟燭を選び置く。
DA：「われは第三の供物を並べ捧げん。」
DA は、ボウルを選び言う。
DA：「われは最後の供物を並べ捧げん。」

DP：「ヒナエルよ、古式に則り汝の供物を奉じたまえ。」
DB が、金牛祭壇の金絹の布をもち、中央の主祭壇に進み出、祭壇に東から西へかける。
DB：「われは初めの供物を図られざる祭壇に捧げん。
翼あるカデシュよ、わが心臓の生命の反映として、供物を受けられよ。」
DB は、引き続き、金牛祭壇から香炉をもち、布の上に置く。
DB：「われは次なる供物を、初めの供物に重ね捧げん。
DB は、蠟燭を選び置く。
DB「われは第三の供物を並べ捧げん。」
DB は、ボウルを選び言う。
DB：「われは最後の供物を並べ捧げん。」

DA が宣言する。
DA：「祭壇に宇宙の軸を召喚せん。」
四人の司官は、玉座を離れ祭壇に近づいて、両手を互い握り祭壇を囲む。
DV：「ヨド」
DP：「ヘー」
DA：「ヴァウ」
DB：「ヘー」

DA が宣言する。
DA：「大いなる周行をもって、這い回る竜の術式を執行せん。」

司官は南を向き、D V、D P、D A、D Bの順に南の玉座に向かう。
D Vが玉座の前で祭壇を向き胸の前で腕を組んで止まる。
D P、D A、D Bがその前を通過する。最後尾にD Vがつく。
D Pは、南の玉座の前で祭壇を向き胸の前で腕を組んで止まる。
D A、D B、D Vがその前を通過する。
以下、同じように順序を入れ替えながら、左回りに三周する。

3周目は、各玉座の前で停止した司官は、列の最後尾にはつかず、ひとりずつ人数を減じて元の位置に戻る。

D A：「神秘なる周行は完成し、竜は天球を周回せり。
昼と夜は均衡し、春分は到来せり。」

D Aは祭壇に東から、D Vは西から近づく。
D Aは、ホルスのサインを行う。D AとD Vは、祭壇の上に身を乗り出し、他者に聞かれぬようパスワードを交換する。
D A：「深き闇に拝礼す。光は闇より生まれたり。神殿の古きパスワードは・・・なり。」
D AとD Vは、身を離し、D Vがハーポクラテスのサインを行う。
今度はD Vがホルスのサインを行い、両者は身を乗り出して、パスワードを交換する。
D V：「全き光に拝礼す。闇は光に内在せり。神殿の新しきパスワードは・・・なり。」
身を離し、D Aがハーポクラテスのサインを行う。

D V：「パスワードは交換された。」

司官を含めた全員が祭壇を取り囲む。

D V：「腕を組み、手と手を取りて、われらのオーラをひとつに融け合わせよう。
無敵なる主の顕現にあずかりて、われらの靈魂をひとつとなし、祭壇に注ぎ込まん。
そをもちて、この神殿は栄光の場とならん。」

全員が手を組み人間の輪のなかに祭壇を包み込む。手を放すことなく次を唱える。
D V：「主よ。われらは自らを捧げん。わが心臓と靈魂は、汝への絶ゆることなき供物とならん。汝が御手の技の裔を受け、汝の意志のままに与え、奪いたまえ。アーメン。」

D V：「聖なるかな、汝、宇宙の主よ！
聖なるかな、汝、自然の造らざる者よ！
聖なるかな、汝、広大にして強大なる者よ！
光と闇の主よ。」

D V：「聖なる場に神秘なる逆周行を起こさん。」
先ほどとは逆に竜の尾の順序で、D B、D A、D P、D Vの列が北へ向かう。
北の玉座でD Bが列の後尾に行き、D A、D P、D V、D Bの列が東に向かう。
以後、同じように順序を入れ替えながら、3周し、最後の周行で自分の場に戻って止まる。

D V：「神秘なる逆周行は完成した。玉座を解放せん。」

D Bは、北の玉座に向き直り、鎌を用いて等腕十字と外接する円を描き、腕を胸の前で交差して頭を垂れる。
D B：「汝が守護に感謝せん。地の守護聖獣よ。
玉座を解き放ち、緑の大地に戻りたまえ。」

D Aは、東の玉座に向き直り、杖を用いて等腕十字と外接する円を描き、腕を胸の前で交差して頭を垂れる。
D A：「汝が守護に感謝せん。風の守護聖獣よ。
玉座を解き放ち、蒼穹に戻りたまえ。」

D Pは、南の玉座に向き直り、杖を用いて等腕十字と外接する円を描き、腕を胸の前で交差して頭を垂れる。
D P：「汝が守護に感謝せん。水の守護聖獣よ。
玉座を解き放ち、海神の領域に戻りたまえ。」

D Vは、西の玉座に向き直り、剣を用いて等腕十字と外接する円を描き、腕を胸の前で交差して頭を垂れる。

D V：「汝が守護に感謝せん。火の守護聖獣よ。
玉座を解き放ち、炎の火口に戻りたまえ。」

D V：「ティファレットの天使マラキムよ。
砂時計を通り、イエツィラーに戻るときが来た。
魔術師の肉体を脱ぎ捨て、光へと帰還せん。」

D B：「主よ、われらの賛歌を聞きたまえ。大地の輝きと喜びに、感謝を捧げん。
主の栄光はあまねく地上を満たし、われらに恵みをもたらしたり。
主よ、地母神たる大地と人の子らに、愛と祝福を与えたまえ。
メレク・ヒナエルは、肉の衣を去れり。」

D A：「主よ、われらの賛歌を聞きたまえ。天の音楽の響く大空に、感謝を捧げん。
主の御言葉は、星々の歌声に彩られ、われらに希望をもたらしたり。
主よ、やさしき風と人の子らに、英知と祝福を与えたまえ。
メレク・ヴァナエルは、肉の衣を去れり。」

D P：「主よ、われらの賛歌を聞きたまえ。生命の生まれ滅する大海に、感謝を捧げん。
主の御手の指は、すべての被造物に、色鮮やかな輝きをもたらしたり。
主よ、万物の生命の母たる水と人の子らに、多様さと祝福を与えたまえ。
メレク・ヘクラエルは、肉の衣を去れり。」

D V：「主よ、われらの賛歌を聞きたまえ。躍動する炎の力に、感謝を捧げん。
主の聖なる火花は、砂のひとつぶたりと見逃さず、靈魂をもたらしたり。
主よ、久遠の霊の表象たる火と人の子らに、力と祝福を与えたまえ。
メレク・ヨカエルは、肉の衣を去れり。」

全員：「主よ、われらに祝福あれ。われらは絶えることなく汝を称えん。」

D V：「人の子らよ。マラキムは去れり。地上に帰還せん。」

D Bが先頭に立ち、右回りに周行する。参列者も同様に約半周し、西の扉を抜けてイエソド神殿に向かう。D Vは主祭壇に1礼して、最後にティファレット神殿を去る。

イエソド神殿を素通りし、一同はマルクト神殿に帰還する。

最後に帰還したD Vが、月の追儼のユニカーサル・ヘキサグラムを描いて小径を閉鎖し、引き続き《ヴェールを閉じる》サインを行う。

D V：「I H S h V HとI H V S h Hの御名において、
この儀式により拘束されし、すべての《霊》を解放せん。」

D Vは祭壇に向き直る。全員が祭壇を向く。

D V：「われは宣言する。神殿作業は終了せり。」

全員：「神殿作業は終了せり。アーメン。」

D Aが先頭に逆周行（左回り）を開始する。D P、D B、南の参加者、北の参加者の順でその後を追ひ、各自が3度周行したら、作業場を出る。最後にD Vが、退出する。

神殿の外庭でウシャブティを解放し、光の洞窟を通過して光体は自分の部屋に戻る。

静かに肉体に戻る。四肢の感覚が戻ったところで、光の法衣を脱ぐ。（特別な手順は必要ない。）静かに目を開き、立ち上がる。

法衣を着用している場合は、沈黙のうちに着替える。

普段着に戻り、儀式についての個人的メモ（『魔法日記』用）を終わるまで、この沈黙を続けるのが望ましい。その後は、軽い食事、飲み物等を探り、地上に帰還したことを自分自身に印象づけること。

VERBORUM PUBLICA
I :: O :: S ::
RITUALE DE
AEQUINOCTIO VERO

IMPRIMI POTEST: I :: O :: S ::
NIHIL OBSTAT QUOMINUS IMPRIMATUR
IMPRIMATUR : M.E.S.A. 5=6
MARTIUS MCMXCVIII

春分儀式 VE98A

Copyrights © All rights reserved I :: O :: S :: 1998
1998年3月8日 I :: O :: S :: 発行

本文書は、複数のまたは個人の団員が、魔術実践の練習のために使用するものであり、I :: O :: S :: の公式儀式手順書ではない。従って、本儀式を公に実施するテンプル、ロッジはその旨を会員に明確に告示する必要がある。しかし、それは同時に本文書を利用した会員の自由な実践活動を妨げるものではない。会員外の使用については、I :: O :: S :: の許可が必要である。本文書の著作権は団に所属する。本文書の内容の一部または全部を、団の文書による許可なく、機械的、電子的、光学的、霊的、その他の手段で複製、引用、転写することを禁じる。